

水平位診療

臨床 Q&A

宇部市開業・世界pdヘルスケアソサエティー
SATVコース チーフモデレーター

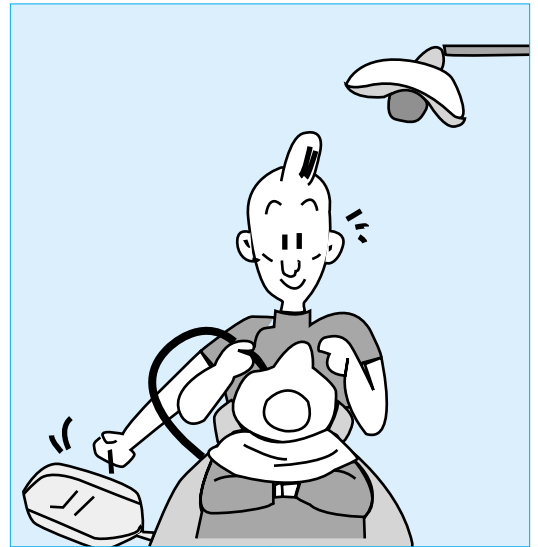
石田雅司 (いしだ まさし)

インフェクションコントロール を配慮したユニットとは？

Q 開業して12年になります。診療所の内装も少し汚れが目立つようになり、このところユニットの修理回数も増えてきたようです。それで思いきってユニットを更新し、内装も改装したいと思っています。今度のユニットは自分自身の使い勝手はもちろんですが、患者さんのことを考えて、インフェクションコントロールに配慮されたものを選びたいと思っていますが、どんなことに注意して選択すればよいでしょうか。

A 使い勝手についてはユニットを選定される上で大変重要な要素ですが、今後も言及する機会が多いと思われますので、今回は患者さんも最近非常に関心を持つようになった感染予防の観点からユニットを見てみたいと思います。

インフェクションコントロールには感染症に罹患した患者さんの対応や感染器材の



消毒・滅菌も大切ですが、それ以上に診療所を清潔に保ち、できるだけ患者さんやスタッフの手指が診療室内のものに触れないですむような配慮をして、感染する機会を少なくすることが大切です。

○汚染する機会をできるだけ少なくする

1) チューブやコードに注意

診療所の中はよく気をつけていても切削粉塵が飛散したり、患者さんやスタッフの着衣に付着したゴミや雑菌が入り込む要素が多くあります。それらがユニットに付着すれば汚染されたこととなります。

よく見かける風景ですが、ユニットのコントロールのためや、付属の小器械のためのチューブやコードが床に這っていたり、ぶら下がっていたりします。



また、インスツルメントに接続されたコードやチューブが床に垂れ下がっていることもよくあります。

このように何もしなくても汚染の原因になるような設計のユニットや小器械の設置は避けるべきでしょう。

2) 手指が触れるところに注意

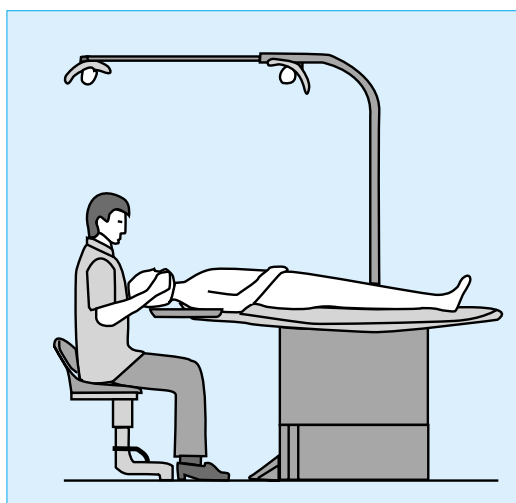
消毒済みのグローブを着用後、患者口腔に触れるまでに器械の調節やスイッチ操作などに無意識に手を触れていることはありませんか。また、治療が始まって患者口腔の血液や唾液が付着したグローブで器械の調節のためにスイッチやハンドルに手指を触れることはありませんか。

患者さんのポジションやインスツルメントトレイポジション、オペレーティングライトのポジション、インスツルメントの調節など、設計上、手指でコントロールする必要があるユニットでは避けることができません。どうしても診療中に調節が必要な場合はフットコントローラーで行うことが好ましいといえます。



3) 飛散する汚染物から身を守る姿勢に注意

治療中の患者口腔と術者の顔面やからだの関係も大切な要素です。治療部位を見るためや指先の操作のために、患者口腔の上



に覗き込んだ姿勢になりますと、治療部位から飛散する切削粉や唾液を顔面やからだに多く浴びることになります。

背中を自然に伸ばし、頭部も無理に前屈させない、自然な姿勢がとれれば患者口腔の向いている方向と術者の顔面やからだの向いている方向は対面しませんから、飛散する汚染物の影響は大幅に軽減されます。ですから診療台はいつも術者が自然な姿勢をとることができるよう、配慮されたものを使用されることをお勧めします。

○汚染物ができるだけ飛散しないように注意する

1) バキュームシリンジの性能とデザインに注意

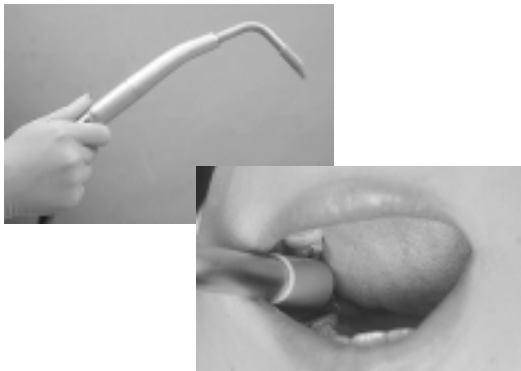
最近、口腔外バキュームを設置される医院が増えていますが、その前に口腔内バキュームの効果を今一度考えてみる必要があ



臨床 Q&A

ります。患者仰臥位でエアータービン切削を行ったときバキュームを効果的に使用するかどうかが口腔外に飛散する切削粉塵の量は大幅に異なることが分かっています。これは補助者のバキュームテクニックによることは否定できませんが、あわせてバキュームの性能と形態が大切な要素です。1秒間に2リットルの水を吸引する吸引量は是非必要です。ところがこれ以上強力になると口腔内の軟組織を吸引したり、口腔が乾燥するなどの逆効果が現れますから注意が必要です。

また、シリンジの形態が補助者や術者の操作する手指の自然な動きを妨げるようであれば、シリンジ先端の開口部を的確に治療部位に持って行くことができず、性能は半減してしまいます。



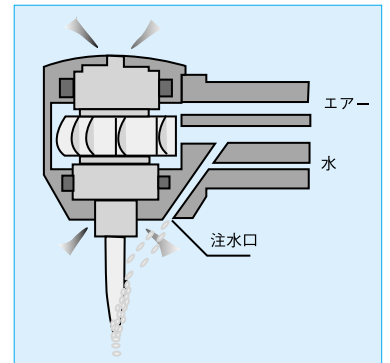
2) タービンの冷却水の量にも注意

エアータービンの切削時には歯質や歯髄への影響を考慮して冷却水を使用します。ところがタービンの性能上、多量の冷却水を必要としているタイプがあります。

水量が多いとミラーが曇って見にくくなると同時に水に混じった汚染物が周囲に飛散する量も増えることとなります。冷却水の適量はバーにかかった水が水滴となって下に落ちる程度です。バーにかかった水が

噴霧状になるようだと水量が多すぎますから調節する必要があります。これらのことに留意するだけで、かなり多くの部分で交差感染を防ぐことができ、診療室を清潔に保つことができます。当然のことですが、患者さんに清潔感を与え、スタッフも安心して作業を

することができます。後は使用済みのインスツルメントがオートクレーブ滅菌



ができるか、エアータービンハンドピースの水やエアの汚物浸入防止装置、バキューム装置の洗浄装置などの防護装置が付いているかなども条件になるでしょう。さらに、清掃が簡単にできるように、インスツルメントやユニットの表面仕上げがスムーズになっているかなども注意すべき点であると思われます。

このような人間中心の自然な診療環境の基準を見い出すことや新しい診療技術と情報技術を取得するためのコースは定期的で開催されています。このコースには是非参加されることをお勧めします。

※「ハイスキルのためのSAT V0,1,2,3コース」

主催：世界pdヘルスケアソサエティ
吹田市江坂町1丁目23-28 江坂南口ビル4F
TEL. (06) 6330-3033

※「21世紀対応の診療と環境」

※「パワーアップセミナー」

主催：(株)モリタ
東京都台東区上野2丁目11-15
TEL. (03) 3836-6161
吹田市垂水町3丁目33-18
TEL. (06) 6380-2525